

令和7年度実践的キャリア教育研修会

オンライン研修
(R7.9.24)

本研修は、各校のキャリア教育の課題を踏まえ、「どのような資質・能力をもった児童生徒を育てたいか」という視点から、管内企業の講演を通じて地域産業への理解を深めること、また、講演、講義から得た気づきや考えを共有し、各校の全体計画や年間指導計画の見直し・改善を協議することで、PDCAサイクルによるキャリア教育の充実を図ることを目的としています。

講演では、日本端子株式会社生産本部花泉工場 総務課長 藤澤 博明様より「企業が求める人材と学校教育に期待すること」と題し、小・中学校で育んでほしい資質・能力について、わかりやすくご説明いただきました。

日本端子株式会社花泉工場では、管内の高校を対象にインターンシップや工場見学を実施しているほか、中学校等への出前講座も行っています。また、毎年管内の高校から新卒者を採用しています。

【企業が求める人材】

- ☑ 誠実で謙虚な姿勢をもつ人
- ☑ スピード感と行動力のある人
- ☑ 物事を徹底的にやりぬく力がある人
- ☑ 「学力」＝学ぼうとする意欲がある人
 - 知識や技術は入社後に身につけることができるが、仕事に向かう姿勢や人間性は入社前にしっかりと育んでほしい。
 - 専門知識以上に「人間力」の高い人材を求めている。
 - 変化に柔軟に対応できる力も、これからの時代に必要不可欠である。

【学校教育に期待すること】

- ☑ 探究心をくすぐる学び
 - 答えがないことや失敗すること、それも経験。大切な機会と捉えてたくさんチャレンジさせてほしい。
- ☑ 能動的に動くことができるような学び
 - 「やらされる」ではなく、「自分が進んで取り組む機会」をぜひ確保してほしい。
- ☑ 色々な年代とのかかわりを経験すること
 - 日本端子をはじめ、企業では様々な年代や背景をもつ人と協働する。そうした環境に適応できる素地を育ててほしい。

【講演から学んだこと（研修者の感想より）】

- 子どもの数が減少していく中で、企業側の苦勞の大きさ、学校教育に求められることの大きさを実感しました。能動的に動けるかどうかは、これからの時代に本当に必要だと感じました。
- 求められる力として人間力、学ぼうとする姿勢、誠実さ謙虚さ等が挙げられた。どの企業も概ね同じだと認識している。親や教員も同じように児童・生徒に話しているが、企業の方から話されると児童・生徒にとってはより説得力があるので、今後も職業講話や体験を実施していきたい。
- より失敗が許されない傾向にある世の中で、トライ＆エラーができる学校であるべきだと改めて感じた。大人が待てず、「転ばぬ先の杖」になっていないか、再考する必要性を感じた。

講義「キャリア教育の充実に向けて」協議「各校のキャリア教育計画の見直しと改善」

(県南教育事務所 指導主事 三上 貴史)

☑ 育成すべき能力を具体的に設定し明確化する

いわてキャリア教育指針で示されている「総合生活力」と「人生設計力」を土台とし、具体的な基礎的・汎用的能力を「たたき台」として活用する。その際、自校の児童生徒の実態やキャリア発達上の課題を踏まえ、育成を目指す資質・能力を具体的に設定し、目標を明確にすること。

☑ 学校教育活動全体を通して系統的・組織的に実践する

特別活動を「要」としつつ、各教科(科目)等の特質に応じて充実を図る。また、日常の教育活動をキャリア教育の「宝」として見出し、基礎的・汎用的能力のフィルターを通して捉えること。

☑ 「キャリア・パスポート」を活用し、学びの系統性を確保する

キャリア・パスポートの活用は、小中高へと系統的なキャリア教育を進めることに資するとともに、児童生徒の自己理解と教師の児童生徒理解を深める役割がある。

【協議から学んだこと（研修者の感想より）】

- 自校の計画だけ見ているとなかなか改善点が見いだせないが、各校の先生方と意見や現状を出し合うことで、自校の特色と課題を見出すことができた。
- 全体計画について、実際に活用できる全体計画とし、「総合生活力」と「人生設計力」の6つの項目・能力を位置付けて見直しを図りたい。
- 他校と自校の状況を交流したことで、全体計画を定期的にアップデートしていくことの重要性を認識した。

いわてキャリア教育指針

https://www.pref.iwate.jp/res/projects/default_project/page_001/031/141/r02.03shishinnkait/eibann.pdf

